

R

判別分析

判別分析の例 2

データ

■ 注意

- ・ 判別するカテゴリーはファクター型

■ NICER のデータを例に

- ・ 学習者データと母語話者データより、以下の言語的特徴量を調べた結果のデータ・フレーム (all_indexes.df) を例として。

MASS パッケージの中の `lda()` を使って

■ 6 つの説明変数により話者が L1 か L2 かを判別するモデル

■ 判別精度

■ 判別率：全体の数のうち、正しく判別できたものの割合

- ・ DA.model の場合、99% は正しく判別できている

重要な説明変数の選択

■ 青木先生の関数を使用

<http://aoki2.si.gunma-u.ac.jp/R/sdis.html>

```
source("http://aoki2.si.gunma-u.ac.jp/R/src/sdis.R", encoding="euc-jp")
```

- ・ 三つの説明変数 (Type, NoS, AWL) が選択された。

三つの説明変数 (Type, NoS, AWL) を使った判別モデル

■ 判別表

■ 判別率

標準化判別係数が上位 2 つの説明変数 (Type, NoS) を使った判別モデル

■ 判別表

■ 判別率

■ グラフの作成